



TITLE:

米國ノ労働缺乏ト日本移民

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

---

CITATION:

米田, 庄太郎. 米國ノ労働缺乏ト日本移民. 經濟論叢 1917, 4(6): 877-899

ISSUE DATE:

1917-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127216>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

# 經濟論叢

第四卷 第六號

大正六年六月一日發行

## 論說

中壽ノ說(一).....	法學博士	財部 靜治
奢侈税ノ本質及其構造.....	法學博士	神戶 正雄
『座』ノ研究(三、完).....	文學博士	三浦 周行
東洋ニ於ケル古代ノ社會政策.....		瀧本 誠一

## 時事問題

船腹調節策.....	法學博士	戶田 海市
禁輸及關稅ニ依ル包圍攻撃.....	法學博士	神戶 正雄
米國ノ勞働缺乏ト日本移民.....		米田 庄太郎

## 雜錄

Utilityノ譯語ニ就イテ.....	法學士	小島 祐馬
海上保險發展史ニ關スル一異說.....	法學士	小島 昌太郎
山片蟠桃ノ米價論.....	法學士	本庄 榮治郎
精神的活力ト年齡.....	法學博士	河上 肇
佛領亞弗利加植民地鐵道ノ現在及將來.....		山本 美越乃
Ch. Boothノ死ヲ聞キテ.....	法學博士	財部 靜治

# 米國ノ勞働缺乏ト日本移民

米田庄太郎

## (一)

余ハ本雜誌昨年五月號及ビ六月號ニ於テ「戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題」ト題スル一論文ヲ發表シ、又同年五月大阪毎日新聞紙上ニ於テ「戰後ノ日米移民問題」ト題スル一論文ヲ十回續イテ公ニシタガ、其ノ主意ハツマリ戰後米國ニ於ケル歐洲移民ノ數ハ大ニ減少シテ、到底米國ニ於ケル勞働ノ需要ヲ充タスコトガ出來ナクナリ、爲メニ米國ニ於テハ勞働ノ不足或ハ缺乏ガ感セラレテクル、而シテ其ノ結果トシテ米國ハ自<sup>オソ</sup>カラ東洋移民ノ排斥或ハ制限ヲ寬和セネバナラナクナツテクルデアラウガ、其ノ際種々ノ理由ニヨリテ先ヅ日本移民ノ制限ヲ撤廢又ハ寬和スルデアラウ、此クシテ日米移民問題ハ、今回ノ大戰爭ノ影響ニヨリテ、吾人ノ從來豫想シテ居ツタヨリハ、遙カニ容易ク平和的ナ解決ヲ見ルコトガ出來ルノデハアルマイカト、云フコトニアツタノデアアル。併シカカル意見ハ、武力ニヨラネバ、此ノ問題ハ到底我國ニ満足ナル解決ヲ得ルコトガ出來ナイモノノ如ク、考ヘテ得ツタ當時ノ我國ノ識者ニトツテハ、甚ダ亂暴ナ議論ノ如クニ感セラレタト見ヘ、此ノ問題ノお<sup>ソ</sup>りち<sup>ト</sup>認メラレテ居ル或知名ノ學者ヨリ、余ハ強キ反對ヲ受ケタノデアアル。余ハ之レニ對シテ詳シキ答辯ヲ試ミタガ、併シ當時ノ狀態デハ勿論愚見

ヲ確實ト認メシムルコトハ不可能デアツタ。ソレハ此ノ種ノ豫見の考察ニ於テハ避ケ難イコトデアル。且ツ余自身モアマリ確信シテ居ツタ譯デモナイ、只余ガ種々ノ方面ヨリ考察シタル結果、右ノ如キ論結ニ達シタカラ、一種ノ蓋然的<sup>プロバブル</sup>ナ見解トシテ之ヲ公ニシテ、我國ノ識者ノ注意ヲ惹起セントシタダケデアル。而シテ實際上多少識者ノ注意ヲ引キシト見ヘ、東京ノ二三ノ新聞ニ愚見ヲ轉載セシモノガアリ、亦一見識タルヲ失ハナイトテ、之ヲ引用サレタ大家モアリ、又昨年ノ秋ニ公ニサレタ「現代大家論說集」中ニハ東京ノ「やまと新聞」ニ轉載セシモノヲ更ニ轉載シテ居ルトノ事デアル。尙ホ書面ニテ、愚見ニ對シテ大ニ興味ヲ感ゼシコトヲ傳ヘラレシ人々モ少ナクナイ。ソレデ余ハ愚見ガ多少識者ノ注意ヲ惹起セシコトヲ察シテ、心潜カニ満足シテ居ツタノデアル。

今愚見ヲ發表シテヨリ殆ンド一ケ年ヲ經過セントスル今日、余ハ再ビ此ノ問題ヲ論ゼントスルニ當テ、其ノ眼目トスル處ハ、ツマリ其ノ後一ケ年間ニ起ツタ重要ナル事件ノ愚見ニ對スル意義ヲ調ラベ、又多少ノ修正ヲ加ヘントスルニアルノデアル。

## (二)

全體余ハ余ノ解スル、如キ意味ノ社會學<sup>(1)</sup>ノ研究者トシテ、何レノ社會現象ヲモ、之ヲ理論的ニ研究スルコトヲ以テ自分ノ任務ト信ンジテ居ルノデアル。隨フテ例令實際的ナ社會問題ヲ論究スルトシテモ、やはり之ヲ實際問題トシテコリハ寧ロ理論問題ト見テ研究シテ居ルノデアル。サレバ實際問題ヲ只實際問題トシテ論ズル人々ニトツテハ、余輩ノ論說スル事ハ、アマリニ非實際的

(1) 社會學院年報第一年第一册第二册合本及ビ第四册第五册合本參考

ナ、又ハ迂遠ナ考ヘノ様ニ感ゼラルルガモ知レナイ。併シ是レハ總テ理論的研究ニ於テ免ルルコトノ出來ナイ傾向ナノデ、理論的ニ考ヘルモノハ、只表面上ニ現ハレタ事實ヲ考察スルダケデ満足セズ、更ニ其ノ奥底ニ潜メル深奥ナル形勢或ハ勢力ヲ觀破シテ以テ少クモ比較的ニ長キ一定ノ期間内ニ於テ、早晚現ハレザルヲ得ナイト思ハルル現象ヲ洞察セントスルノデアル。而シテ其ノ現象ノ現ハルル精確ナル瞬間ハ、若シ測定シ得ラルレバ、之ヲ試ミルガ、併シ例令精確ニ測定シ得ラレナイトシテモ、夫レガ爲メニ其ノ研究ノ主意ハ傷ケラレナイモノト考ヘテ居ルノデアル。但シ實際的ニハ其ノ精確ナル瞬間ヲ豫知スルコトハ甚ダ重要デアル。而シテ多年ノ經驗ヲ積ンダ實際家ハ能ク之ヲナシ得ル。是レ實際家ノ甚ダ貴重ナル所以デアル。サレド理論的研究者ニアリテハ、比較的ニ長キ一定ノ期間内ニ於テ何時カ實現セラル可ク推測サルル形勢ヲ、表面的ナル事實ノ奥底ニ於テ洞察スルコトガ出來レバ、夫レデ其ノ任務ハ盡クサレタデアル。此クテ理論家ト實際家トノ協働ガ必要トナルノデアル。要スルニ理論家ハ表面的ナル事實ノ奥底ニ潜在スル形勢或ハ勢力ヲ洞察シテ、其ノ比較的ニ長キ一定ノ期間中ノ何レカノ瞬間ニ於テ實現セラルル可キコトヲ示シ、而シテ實際家ハ之レニ基ツイテ、多年ノ經驗上カラシテ其ノ實現セラルル可キ瞬間ヲ多少精確ニ豫測シ、之レニ對スル適宜ナル方策ヲ工夫ス可キモノデアル。此クノ如クニシテ、吾人ハ吾人ノ實際的ナル社會の生活ヲ適當ニ統御シ、整理シ運營シテ行クコトガ出來ルノデアル。若シ一人ニシテ理論家ト實際家トノ兩資格ヲ兼有スルコトガ出來レバ、實ニ結構デアル。而シテ此ノ如キ優秀非凡ナル人物ハナイデハナイ。併シ甚ダ稀レデアル。實際家ハアマリニ表面上

ノ複雜ナル事實ニ捕ヘラレテ、其ノ奥底ニ潜在スル形勢或ハ勢力ヲ觀破シ洞察スルニ必要ナル推理的考察ノ力ヲ缺キ、之レニ反シテ理論家ハ又アマリニ其ノ奥底ニ潜在スル形勢或ハ勢力ヲ推察スルコトニ熱中シテ、實際の事業ノ成功ニ必要ナル表面上ノ事實ノ效力ヲ適當ニ評價スル力ヲ失ナイ易イ、即チアマリニ抽象的ニナリ易イノデアル。此クテ兩者ノ適當ナル協働ガ必要トナル。此ノ協働ニヨリテ兩者ノ長所ガ適當ニ結合セラレ、以テ實際の事業ガ尤トモ有效ニ遂行サレルノデアル。而シテ余輩ノ論述スルコトハ、主トシテ理論的研究ノ結果デアルカラ、讀者ハ右ノ點ヲヨク念頭ニ置イテ閱讀サレタイ。又實際家ハ之ヲ適當ニ斟酌シテ、實際ニ運用サレンコトヲ希望スルノデアル。

却說余ガ昨年公ニセル論文ニ於テハ、歐洲大戰爭ハ結局戰敗決セズシテ大體上相引キトナツテ終結ヲ告グルデアラウト云フ事、及ビ戰後各交戰國ハ復舊事業ニ全力ヲ注グデアラウト云フ事ヲ假定シ、其ノ假定ノ下ニ愚見ヲ立テタノデアル。而シテ其ノ際ニハ露西亞ノ革命モ、亦米國ノ參戰モ全ク勘定ニハ入レテ居ラナカツタノデアル。蓋シ露西亞ニハ早晚革命騷動ノ起ルコトヤ、又米國モ遂ニハ戰爭ニ引キ込マレルカモ知レナイト云フ懸念ハアツタガ、併シ露西亞ノ革命ハサホト急速ニ成功スルトハトテモ豫想出來ナカツタシ、又米國モ多分參戰ハスマイト思ハレテ居ツタカラデアル。然ルニ本年ニ入リテヨリ、露西亞ノ革命ハ豫想外ニ迅速ニ成功シ、又米國モ急ニ參戰スルコトトナリ、更ニ米國ハ豫想以上ニ眞面目ニ戰爭ニ力ヲ盡クス傾向サヘ現ハレテ來タ。是ニ於テカ愚見ノ上カラ見テ、此等ノ新事件ハ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ上ニ又日米移民

問題ノ上ニ、如何ナル影響ヲ及ボスカヲ、新ニ考察スルコトガ、必要トナツテ來タノデアル。

### (三)

夫レ露西亞ノ革命ハ、今日ノ處デハ如何ニ落着スルカハ、之ヲ豫想スルニ甚ダ困難デアル。「ぶるじゅあ」階級ト「ぶろれたりあ」階級トカ相合力協働シテ、貴族階級ノ勢力ヲ破壊シタト云フ點ニ於テハ、全ク佛蘭西ノ革命ニ類似シテ居ル。更ニ貴族階級ノ一部分ガ、之レニ協力シタト云フ點ニ於テモ、兩革命ハ一致シテ居ル。併シ佛國革命ニ於テハ「ぶるじゅあ」階級ノ勢力ハ「ぶろれたりあ」階級ノ勢力ヨリモ強大ナリシガ爲メ、遂ニ前者ハ後者ヲ厭倒シテ「ぶるじゅあ」的共和國ヲ確立シタノデアル。其ノ後なばれおん第一世及ビ第三世ニヨリテ、君主政治カ復治サレタガ、併シ「ぶるじゅあ」階級ノ勢力ハ決シテ衰頽セス、やはり「ぶるじゅあ」的君主政治デアツタ。而シテ其後再ビ「ぶるじゅあ」的共和政治ガ建設サレタ。併シ「ぶるじゅあ」階級モ其後段々勢力ヲ養ナイ、遂ニ第十九世紀ノ終リ頃ニ至ツテ、内閣ノ一部分ヲ占有スルマデニナツタノデアル。然ルニ今日ノ露西亞ノ革命ニ於ケル「ぶるじゅあ」階級ト「ぶろれたりあ」階級トノ間ノ勢力關係ヲ見ルニ、夫レハ佛國革命ニ於ケルトハ異ナツテ居ツテ、少クモ目下ノ處デハ「ぶろれたりあ」階級ノ勢力ノ方ガ「ぶるじゅあ」階級ノ勢力ヨリモ大ニシテ、常ニ前者ガ後者ヲ壓迫スル傾向ガ見ユルノデアル。ち―ヘ社氏ヤけりんすき―氏ニヨリテ代表サレテ居ル「ぶろれたりあ」階級ノ勢力ハ、みりゆ―こぎ氏ニヨリテ尤トモヨク代表サレテ居ルト思ハル「ぶろれたりあ」階級ヲ壓迫シツツアルガ如ク見ユル。サレバ此ノ儘ニテ進ミ行カハ露西亞ノ革命ハ、佛國ノ革命トハ異ナレル

結果ヲ生ジ、「ぶるじゅあ」階級ヲ中心トスル共和政治或ハ立憲君主政治ニ落着セズシテ「ぶろれたりあ」階級ヲ中心トスル共和政治ニ落着スルカモ知レナイ。併シ今日ノ露西亞ノ「ぶろれたりあ」階級ハ、マダ堅固ナル國家ヲ組織スルダケノ政治的能力ヲ具ヘテ居ラナイカラ、若シ此ノ階級ガ中心トナツテ露西亞ノ國家ヲ組織スルコトナラバ、恐クハ露西亞ハ間モナク無政府狀態ニ陥ツテ、始末ニ了ヘナクナルデアラウ。更ニ其ノ際でまじぐのナちくてゝとあが起ツテ、再ビ專制政治ニ逆戻リスルカモ知レナイ。併シ今日「ぶろれたりあ」階級ヲシテ露西亞ノ國家ヲ組織セシムルコトハ、聯合國ニトツテ甚ダ不利益デアルカラ、恐クハ英米佛ノ三ヶ國ガ直接間接ニ力ヲ添ヘテ、「ぶるじゅあ」階級ヲ中心トシ、而モ佛國革命後ニ於ケルトハ異リテ、「ぶろれたりあ」階級ニモ大ニ政權ヲ與フル立憲民主的又ハ立憲君主制の國家ヲ組織セシメルデアラウト思ハレル。又恐クハ之ガ露西亞ノ健全ナル發達ニ對シテ最トモ有益ナル方針デアラウト思ハレル。イヅレニシテモ戰後ノ露西亞ニ於テハ從來トハ異リテ、「ぶろれたりあ」階級ノ勢力ガ大ニ強マルル民本主義或ハ民政主義ガ發達スルコトダケハ疑ハレナイ様ニ思ハレル。而シテ此ノ事ハ露西亞國民ノ政治生活ニ於ケル大變動ヲ意味スルモノニシテ、新ラタニ建設サレタル民政主義ノ露西亞國家ハ、先ヅ國內ノ經濟的發達及ビ教育ノ普及ニ尤トモ力ヲ盡クサントスル結果、軍國主義ハ自カラ大ニ衰ヘテクルデアラウ。今日ノ露西亞ノ經濟狀態ヤ、社會狀態ハ、其ノ改善發達ノ爲メニ非常ノ努力ヲ要スルコトハ、何人モ疑ハナイ、否ナ是レハ新シキ露西亞國家ノ中堅トナル「ぶるじゅあ」階級及ヒ「ぶろれたりあ」階級ノ識者自身ノ、尤トモヨク覺知シテ居ル事デアル。而シテ廣大ナル露西



亞ノ經濟的及ヒ社會的狀態ノ改善發達ヲ圖ルト云フコトハ、實ニ非常ナル資本ト努力トヲ要スル大事業デアル。是レガ爲メニハ、新露西亞ハ軍國主義ヲ放棄セザルヲ得ナイコトハ明白デアル。要スルニ戰後ノ新露西亞ニ於テハ、諸般ノ事業ハ勃興シテ、資本ト共ニ大ニ勞働ヲ要スル。更ニ其ノ土地制度カ大ニ改善サレル可キコトハ、今日農民黨ノ要求シツツアル事項ヲ見テモ明ラカデアル。而シテ土地制度ノ改善ガ、國民ノ海外移住ヲ減弱セシムル有力ナル一原因デアルコトハ、昨年ノ論文中ニ論述セルガ如クデアル。此クテ戰後ノ新露西亞ニ於テ、諸般ノ事業ガ勃興シテ資本ト共ニ大ニ勞働ヲ要求シ、又土地制度カ改善サレテクルニ於テハ、人民ノ海外移住ハ自カラ減少セザルヲ得ナイ。殊ニ米國ニ於ケル露西亞移民ノ大部分ヲ占メテ居ツタ猶太人ニアリテモ、完全ナル自由ガ與ヘラレルニ於テハ、露西亞ヲ去ルモノハ大ニ減少スルデアラウト思ハレル。波蘭土人ヤリすあにあ人ニ就テモ同様デアル。要スルニ露西亞ノ革命ハ、戰後米國ニ於ケル露西亞移民ノ數ヲ、更ニ一層多ク減少セシムルデアラウト、推察サレルノデアル。

#### (四)

次ニ米國ノ參戰ハ、戰後同國ニ於ケル勞働ノ供給ニ關シテ、如何ナル影響ヲ及ボスカヲ考察セシ、之レハ主トシテ其ノ參戰ノ程度如何ニ依テ定マルノデアリ、而シテ今日ノ處デハマダ其ノ參戰ノ程度ヲ豫測スルコトハ出來ナイカラ、確實ニ近イ豫見ヲ立タルコトハ甚ダ困難デアル。併シ少クモ多少ノ軍隊ヲ戰場ニ送ルコトハ明ラカニ豫知サレル。隨フテ又多少勞働ノ供給ヲ減少スル結果ヲ生ズルコトモ、明ラカニ豫知サレル。而シテ若シ大軍ヲ戰場ニ送ルコトニナラバ、其ノ

勞働ノ供給ニ及ボス影響ノ甚大ナル可キハ云フマデモナイ。尙ホ米國ノ參戰ニ就テ大ニ注意ス可キ問題ガアル。夫レハ米國政府ガ同國ニ在住スル聯合國ノ臣民ニ對シテ、各聯合國政府ガ徵兵令ヲ適用スルコトヲ承認スルヤ否ヤト云フ問題デアル。此問題ハ米國ノ參戰當時ニ、既ニ起ツテ居ツタ。併シ其ノ後如何ニ成ツテ居ルカヲ知ラナイガ、戰爭ガ益々長引クニ於テハ、例令米國自カラガ大仕掛ノ出兵ヲナサナイニシテモ、多分聯合國ガ、各々其ノ在米ノ臣民ニ徵兵令ヲ適用スルコトヲ許諾スルデアラウト思ハレル。而シテ其ノ際聯合國政府ガ米國ニ於テ徵集シ得ル人員ノ數ハ、實際上如何程ニ達スルカハ、之ヲ精確ニ測定シ難イガ、トニカク相當ナ數ニ達スルデアラウト思ハレル。隨フテ又實際ニ於テハ米國ガ大軍ヲ戰場ニ送ルト、大シタ差ノナイ結果ヲ生ズルカモ知レナイ、要スルニ、米國ノ參戰ハ同國ニ於ケル勞働ノ供給ヲ減少スル事ニ早晚大ナル影響ヲ及ボスデアラウト推測サレルノデアル。而シテ此ノ事ハ又、戰後ニ於ケル米國ノ社會狀態ノ上ニ甚ダ興味アル、又重大ナル結果ヲ生ズルデアラウト思ハレル。夫レハ戰後ノ米國ニ於ケル獨逸民族の要素ノ勢力ガ益々強マルコトデアル。

現今ノ米國人口ニ於テ、獨逸民族の要素ノ數ガ重要ナル地位ヲ占メテ居ルコトハ、何人モ熟知スル處デ、茲ニ統計ヲアゲテ之ヲ證明スル必要ハナイト思フガ、然ルニ此ノ際在米聯合國人民ノ多數ヲ母國ニ呼ビ戻スニ於テハ、同國ニ於ケル獨逸民族の要素ノ數ハ相對的ニ大ニ増加スルコトナル。隨フテ又其ノ社會の勢力ハ大ニ増加スルコトナルノデアル。而シテ戰後戰場ニ出デタル在米聯合國人民ガ悉ク再ヒ米國ニ歸ルトスルモ、戰死及ビ病死ノ結果、其ノ數ハ餘程減少ス

ルデアラウト推察サレル。サレバ戰後ノ米國ニ於テハ、獨逸ハ新ラタニ米國ヘ移民ヲ送ラザルモ、而モ獨逸民族の要素ノ勢力ハ相對的ニ大ニ強マル結果ヲ生ズル。而シテ此ノ事ハ又米國ノ戰後ノ發達ノ上ニ重要ナル影響ヲ及ボスト推察サレルノデアル。併シ其ノ影響ハ如何ナルモノデアルカ、又夫レガ日米關係ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ボスカハ、到底今日ヨリシテ精確ニ豫知シ難イコトデアルガ、トニカク米國政府ガ同國在住聯合國人民ニ對シテ各聯合國政府カ徵兵令ヲ適用スルコトヲ許諾スル場合ニハ、結局同國ニ於ケル獨逸民族の要素ノ勢力ヲ大ニ強メル結果ヲ生ズルコトハ、注意ス可キ點デアルト思フ。

### (五)

昨年ノ論文ニ於テモ論ゼシ如ク、戰後ノ米國移民運動ニ於テ、伊太利移民ハ尤トモ重要ナル地位ヲ占ムルモノト考ヘラレテ居ル。而シテ米國ノ學者中ニモ、戰後例令北歐諸國ヨリノ移民ハ全ク杜絶スルモ、尙ホ南歐移民殊ニ伊太利移民ハ戰前ニ變ラズ、否ナ戰前ヨリモ一層多ク來住シ、米國ハ決シテ勞働ノ缺乏或ハ不足ヲ感ジナイデアラウ、或ハ却テ移民過多ノ現象ヲ呈スルカモ知レナイト考ヘテ居ル人々ハ少ナクナイ。殊ニ移民制限論者ハカカル考ヘヲ抱イテ居ル様デアル。併シ戰後ニ於テモ、果シテ伊太利ハ戰前同様ニ多數ノ移民ヲ米國ニ送ルコトガ出來ルデアラウカ。

全體今日ノ文明國ニ於テ多數ノ移民ヲ出ダスモノハ、工業ノ發達ノ幼稚ナル國デアル。例令人口ノ増加大ナルモ、工業カ大ニ發達スレバ外國移住ハ自カラ減少スルノデアル。伊太利ノふいり

ぶば、かゝるり氏ハ、此ノ關係ニ就テ詳細ナル研究ヲ試ミ、先ヅ人口ノ増加ト、富ノ増進ト、工業化ノ發達ト、外國移住ト減少トノ四者ハ、相伴ナフテ進行スル事實ヲ證明シ、更ニ進ンデ人口ノ増加ト、富ノ増進ト、外國移住ノ減少トノ三者ハ、工業化ノ發達ノ函數ニシテ、之レニ依屬スルモノ、又ハ之レガ結果トシテ現ハルルモノナルコトヲ論證セント企テタタ<sup>(1)</sup>。余ハ現代文明國ノ今日マデノ發達ノ上カラ見レバ、確カニ同氏ノ見解ハ正當デアルト認メル、併シ今後モ果シテ右ノ四傾向ガ同伴的ニ進行スルモノナルヤ、殊ニ工業化ノ發達ノ函數トシテ、人口ハ益々増加シ行クモノナルヤヲ大ニ疑フノデアル。否ナ余ハ工業的發達ガ、或程度ニ達シタル後ハ、決シテ人口ノ増加ヲ促進セズ、却テ其ノ減少ヲ招致スルモノデハアルマイカト思フ。是レ工業的發達カ或程度以上ニ達シタル國民ニ於テハ、出生率ガ段々減少シテクルノヲ見テ推察シ得ラレルノデアル。併シ工業的發達ガ、富ノ増進及ビ國外移住ノ減少ヲ伴ナフコトハ事實デアル。今日強大ナル富國ハ何レモ工業ノ發達大ナル國ニシテ、農業國デハナイ。米國ノ巨富モ其ノ工業ノ發達ノ結果デアルコトハ、農業國タリシ時代ノ米國ノ富ハ大ナルモノデナカツタコトヲ見テ明ラカデアル。又英國ヤ獨逸ニ於テ、工業ガ益々發達スルニツレテ、國外移住ハ減少シツツアルコトヲ見レハ、工業的發達ハ國外移住ノ減少ヲ生ズル唯一ノ原因デハナイトシテモ、確カニ其ノ重要ナル一原因デアルコトハ察セラレル。更ニ工業的發達ガ一定ノ程度ニ達シタル後ハ、人口ノ出生率ヲ減少セシメ、又其ノ増加率ヲ減少セシムルモノデアルカラ、自カラ國外移住ヲ減少セシムル結果ヲ生ズルノデアル。要スルニ工業的發達ノ函數トシテ人口ガ増加シ、富ハ増進シ、而シテ國外移住ハ減

(1) Filippo Carli, L'Evoluzione economica della Germania e la legge di popolazione, Rivista Italiana di Sociologia, Settembre-Dicembre. 1914.

少スルト云フかゝる氏ノ見解ハ、工業の發達ガ一定ノ程度ニ達スルマデハ其ノ全體ニ於テ眞實デアル。サレド工業の發達ガ其ノ一定ノ程度ニ達シタル後ハ、尙ホ富ハ増進シ、國外移住ハ減少スルガ、更ニ其ノ増進ガ一原因トナリテ益々國外移住ハ減少スルガ、併シ人口ノ増加ハ停止スル、或ハ人口ハ減少スルカモ知レナイト思ハレルノデアル。

余ハかゝる氏ノ新見解ニ就テハ、上述ノ如キ修正ヲ加ヘタイト思フノデアルガ、併シ茲ニ余ノ注意シタイコトハ、同氏ノ見解全體デハナクシテ、其ノ特ニ工業の發達ハ國外移住ヲ減少セシムルト云フ部分デアル。而シテ此ノ部分ニ就テハ、余ハ全然同氏ノ見解ヲ承認セントスルノデアル。要スルニ伊太利ガ今日特ニ多數ノ國外移住ヲ出シテ居ルノハ、是レ同國ノ人口ガ他國ヨリモ遙カニ勝レテ増加シツツアルガ爲メデナク、主トシテ工業ノ發達ガ幼稚ナルガ爲メデアルノデアル。現ニ伊太利ニ於テモ、工業ノ比較的ニ發達シテ居ル北部地方ヨリハ、國外移住者ヲ出スコト甚ダ少ナク、同國ノ移民ハ主トシテ工業ノ發達ノ非常ニ後レテ居ル南部地方ヨリ出デ居ルノデアル。サレバ北部地方ニ於テ、今一層工業ガ發達スルカ 又ハ南部地方ニ於テモ、工業ガ發達スルニ於テハ、同國ガ國外移住者ヲ出ス餘力ハ大ニ減少セザルヲ得ナイノデアル。尙ホ伊太利ノ人口増加率ハ昨年ノ論又ニモ示セシ如ク、特ニ大ナリト云フホドデナイ。且ツ伊太利ノ出生率モ、ヤハリ段々減少スル傾向ヲ表ハシテ來テ居ルカラ、其ノ増加率ハ早晚減少シテクルデアラウト思ハレル。更ニ伊太利ハアマリ戰爭ニ熱心デナイ様デアルカラ、其ノ戰死者ノ數ハアマリ多クアルマイガ、而モ戰爭中食料品ノ供給ガ不充分デアツタリ、醫藥ノ手當ガ不完全デアル爲メ、死亡率ハ大

ニ増加スルデアラウト思フ。隨フテ此戰爭ニヨリテ、直接間接ニ伊太利ノ損失スル人口數ハ、決シテ少々デアアルマイト思フ。サレバ戰後ニ於ケル同國民ノ國外移住能力ハ戰前ニ比シテ餘程劣ルデアラウト思ハレル。併シ戰後ノ國外移民問題ニ就テ、今日伊太利ノ學者ハ如何ナル意見ヲ抱イテ居ルカ、又ハ一般ノ輿論ハドウデアアルカ。余ハ此ノ點ニ就テ調ラベテ見タイト思フテ居ルガ、不幸ニシテ當大學文科大學ノ社會學研究室ニ購入シテ居ル四五種ノ伊太利ノ社會學雜誌ヤ、又法科大學デ購入シテ居ル伊太利ノ雜誌中ニハ、此問題ヲ論ズル論文ハアマリ見當ラナイノデ、遺憾ナガラ此ノ點ニ就テ詳シク知ルコトハ出來ナイ。併シ最近ニ社會學研究室ニ到着シタル一雜誌中ニ近頃同國ノ一雜誌ニ於テ公ニサレタル此問題ニ關スル一論文ノ大意ヲ紹介シテ居ルカラ、茲ニ之ヲ譯シテ以テ同國ノ輿論ノ一斑ヲ示スコトトスル<sup>(2)</sup>。

戰後ニ於ケル吾人ノ無數ノ問題中デ、移住問題ハ確カニ一ノ重要ナル地位ヲ占メル。而シテ移住問題ハ、今後ハ從來トハ大ニ異ナレル見方デ考察サレテバナラヌ。開戰後ノ最初ノ二ヶ月間ニ於テ、歸國セル伊太利人ノ數ハ殆ンド五十萬人ニ達シテ居ル。而シテ國外ヘ移住スルモノハ最極小數ニ減ジタ。此クテ國民經濟全體ノ均衡ハ破レテ來タ。一方ニ於テハ、幾十萬人ノ國外移住者ハ最早出發セズ、他方ニ於テハ、外國ニ移住シテ居ツタ多數ノ人々ハ母國ニ簇ガリ歸ツテ來タ。而シテ從來ノ如ク、國外ヨリ送ラルル幾億リレノ金、今ヤ全ク杜絶シタ。サレバ多クノ識者ハ、伊太利ノ經濟狀態ニ付テハ大ニ悲觀シタノデアアルガ、併シ實際ニ於テ、伊太利ノ經濟的抵抗カハ彼等ノ考ヘシヨリモ遙カニ大ナルモノデアアルコトガ證明サレタ。伊太利ハ國外移住ガ停止シテモ、尙ホ破産セズシテ、ヨグ己ヲ保持シテ居ルノデアアル。併シ戰爭ガ終レバ、國外移住問題ハ再び起ルデアラウ。而モ夫レハ從來トハ大ニ異ナレル條件ノ下デ起ルデアラウ。恐クハ他國ガ、伊太利ヨリ勞働力ヲ要求スルコトハ以前ヨリモ一層強カラウ。有利ナル種々ノ條件ヲ呈供シテ我國ノ移民ヲ誘リスルデアラウ。併シ此際我人ニトツテ最トモ重大ナル問題ハ、

(1) Rivista Internazionale di Scienze Sociali e Discipline Ausiliarie, 31 Gennaio 1917.

(2) La Vita Italiana, 18 Novembre 1916. — L'Emigrazione italiana dopo la guerra. Civis Italicus.

伊太利人ノ出來ルダケ多クナ伊太利及ビ其ノ植民地ニ於テ保持スル方策ヲ講ズルコトデアル。就テハ、吾人ハ先ツ第一ニ吾人ノ經濟的生活ノ發達ヲ妨クル官僚的障害ヲ悉ク除去シナケレバナラヌ。我國ノ現在ノ植民地ハ、我が農業的國外移住者ノ一定ノ部分ヲ吸收スル方法ニ於テ、確カニ之ヲ發達サセルコトガ出來ルノデアル。次ニ吾人ハ我國民ノ力ヲ以テ、ばるかん諸國ノ恢復ニ力ヲ盡クサネバナラヌ、伊太利人ノ勞力ヲ以テ、ばるかん諸國ノ恢復ヲ圖ルコトハ、伊太利ノ將來ノ發展ノ爲メニ甚ダ重要デアル。而シテ右ノ植民地ノ開拓及ビばるかん諸國ノ發達ニ要スル人數ヲ除ケバ、米國、佛國、獨逸及ビ瑞西等へ移住シ得ル人數ハ、比較的ニ僅カシカ殘ラナイノデアル。尙ホ其等ノ國外移住者ニ就テモ、政府ハ宜シク嚴重ニ之ヲ監督シテ、伊太利人ヲ虐待スル様ナ國へハ其ノ移住ヲ禁ジナケレバナラヌ。

右ノ意見ハ、伊太利ノ移住民ヲ主トシテ農業ニ使用スルト見テ立タルモノデアル。而シテ其ノ見地カラ見ルモ、尙ホ外國ニ移住シ得ルモノハ比較的ニ僅シカナイトスレバ、若シ戰後伊太利ニ於テモ、工業ガ其ノ北部地方ニ於テ見ルガ如ク、南部地方ニ於テモ發達スルカ、又ハ北部地方ノ工業ガ今一層發達スル場合ニハ、之レガ爲メニ多數ノ勞働者ヲ要シ、國外ニ移住シ得ル殘餘ノ人口ハ、益々少ナクナルコトトナルノデアル。伊太利ニ於ケル工業的發達ノ不充分ナル爲メ、同國ガ目下ノ戰爭ニ於テ、如何ニ大ナル不利益ヲ蒙リツツアルカハ、同國ノ識者ノ痛切ニ感じツツアルコトニシテ、今日ニ於テモ既ニ其ノ發達ノ爲メニ種々ナル方策ガ講セラレテ居ル。サレバ戰後ハ、其ノ方面ニ向ツテ、同國ノ政府モ識者モ一層大ニ力ヲ盡クスデアラウト推察サレルノデアル。目下ノ大戰爭ハ、工業ノ發達ハ啻ニ平和的戰爭ノ根本手段デアルバカリデナク、又武力的戰爭ニ於テモ甚ダ重要ナル因素デアツテ、工業ノ發達シ居ラナイ國ハ、到底他國ト戰爭シ得ナイコトヲ深刻ニ教ヘツツアルノデアル。要スルニ戰後ハ伊太利ニ於テモ、工業ノ發達ノ爲メニ、又其

ノ植民地ノ開拓ノ爲メニ、大ナル努力ガ試ミラレ、而シテ夫レガ爲メニ國外ニ移住シ得ル人口ノ餘分ハ、大ニ減少スルデアラウト思ハレルノデアル。

但シ伊太利ニ於テモ、早晚工業ガ發達シ來リ、且ツ植民地ノ經營ガ發達シ來リテ、伊太利移民ニ永ク依賴シ難イコトハ、米國ノ識者モ既ニ覺知シテ居ツタノデアル。サレバ移民局デハ、露西亞ニ調査員ヲ送りテ、露西亞人民ノ移民ノ能力ヲ研究サセタコトガアル。其ノ調査報告ハ昨年ノ同局ノ報告中ニ公ニサレテ居ルガ、夫レニヨリテ見レバ露西亞移民ハ農業勞働者トシテ良好ナルモノノ様デアル。併シ今回ノ大革命ニヨリテ、米國ハ露西亞ヨリモ多クノ移民ヲ望ミ難クナツテ來タノデアル。

# (六)

昨年ノ論文ニ於テ述ベシ愚見中、其ノ後ノ事情ノ變動ト、又詳シキ研究トニヨリテ余ハ少クモ二ヶノ點ニ於テ、多少修正ヲ加フル必要ヲ認メテ來タ。其ノ一ハ米國ノ勞働組合ノ日本移民ニ對スル態度ニ關スルモノニシテ、其ノ二ハ戰後ニ於ケル歐洲交戰國ニ於ケル貨銀ノ昂騰ニ關スルモノデアル。

余ハ昨年ノ論文ニ於テハ、戰後米國ニ於ケル歐洲移民ガ減少シテ、勞働ノ供給ガ不足シ來リ、而シテ東洋移民ノ禁止、殊ニ日本移民ノ制限ヲ撤廢又ハ寛和シナケレバナラヌ經濟的事情ガ迫ツテ來テモ、尙ホ米國ノ勞働組合ハ極力之レニ反對スルモノノ如クニ論ジテ置イタノデアルガ、然ルニ近來米國ノ勞働組合ノ日本移民ニ對スル態度ハ、段々變化シ來リ、其ノ排斥心ノ度合ガ減弱シ



ヲ來タト推察サレル諸現象ガ現ハレテ居ルノデアル。茲ニ其等ノ現象ヲ一々詳シク列舉シテ居ル暇ハナイデ、只友愛會々長鈴木法學士ガ、一昨年加洲勞働大會及ヒ米國勞働大會ニ出席サレタル際ノ、同氏ニ對スル勞働組合ノ態度及ビ待遇ト、昨年ノ同二大會ニ出席サレタル際ノ夫レトノ差異ヲ、同氏ノ記述ニヨリテ約説シ、以テ米國勞働組合ノ日本移民問題ニ對スル感情及ビ態度ノ變動シ來レル形勢ノ一斑ヲ示スニ止メテ置ク。

鈴木法學士ガ日本勞働團體ノ代表者トシテ、一昨年始メテ加洲勞働大會及ヒ米國勞働大會ニ臨ムヤ、兩大會ノ何レニ於テモ、氏ヲ友誼的代表者トシテ出席セシム可キヤ否ヤニ就テ、大ニ議論カアツタノデアル。同氏ハ先ヅ加洲勞働大會ニ出席ノ承認ヲ得シ事情ニ就テ、左ノ如ク述ベテ居ル。

「茲ニ一言セザル可カラザルコトハ、我等兩名ノ代表者タル資格ニ關スル問題デアル。蓋シ日本勞働團體ヨリノ出席ハ極メテ異數ノコトデアツテ、殊ニ排日問題ノ喧シイ加洲ノコトデアルカラ、無理モナイコトデアルガ、我等ノ着米以前ヨリ米人邦人ノ間ニ種々ノ流説ガ傳ヘラレタ。桑港ニ於ケル排日洗濯業同盟ガ其ノ黑幕ニアルハ勿論デアル。或者ハ日本ニハ眞正ノ勞働組合ナルモノナシトテ、我等ノ資格ナ否認セントシ、又或者ハ我等ノ出席ヲ以テ、勞働黨一派ノ排日思想ヲ弱メントスルハ巧ミニ仕組マレタル日本政府ノ代理人ナサト誣フルモアツタ。從ツテ代議員中ニモ二三ノ異論モアツタヤウデアルガ、特ニ學ケラレタル三名ノ調査委員ニ於テ慎重審議ノ結果、大會ニ一通ノ覺書ヲ提出シ我等ノ出席差支ナシトノ意見ヲ發表シタ云々」<sup>(1)</sup>

又同氏ハ米國勞働大會ニ出席ノ承認ヲ得シ事情ニ就テ左ノ如ク述ベテ居ル。

「正式ノ代表者ノ外、英國、加奈陀、并ニ諸團體ヨリノ友誼的代表者七名ヲ算スルノデアル。實ハ我等兩名ノ出席スルコトモ、一時大分問題トナツタノデアル。何トナレハ日本ニ勞働團體アリトイフコトガ、更ニ從來知ラレナカッタノミナラズ、

英國及ヒ加奈陀トハ二十年來友誼的代表者ノ交換ナシテ居タガ、其他ノ國トハ全ク交際セズ、殊ニ日本ニ就テハ種々ノ誤解偏見アルノミナラズ、我等ノ行動妨害ヲ企ツル者ノ流言蜚語モアリ、幹部ノ意見モ一時、我等ノ友誼的代表者トシテノ資格ヲ否認セントスノ有様デアツタ。現ニ各代表者ノ信任狀調査委員會ノ報告ニ於テモ、單ニ日本ヨリ代表者ノ信任狀ヲ受理シタ、イヅレ大會中ノ適當ナル機會ニ於テ演說ヲ乞フノ禮讓ヲ保タンコトヲ勸ムト云フノミデアツテ、認メタトモ認メヌトモ決定セス、海カ山カ頗ル暖昧ノモノデアツタ。

而シテ同氏ハ大會ニ於テ一回ノ演說ヲ試ミタガ、「演說ハ三度拍手喝采ヲ以テ遮ラレタ。演說終ルヤ、だんかん副會長ハ滿場ニ諮ルニ我等ヲ受入レルヤ否ヤヲ以テシタ。誰一人ノ異議モナイ。

此一場ノ演說ニ依リテ我等ハ正式ニ大會ニ出席スル權利ヲ得云々」<sup>(1)</sup>

然ルニ昨年鈴木法學士ガ、再ビ右ノ二大會ニ出席スルヤ、同氏ハ大ニ優遇セラレ、且ツ大會ニ於ケル日本移民問題ニ對スル米國勞働組合ノ態度モ、餘程變ツタゴトガ推察サレルノデアアル。先ヅ加洲勞働大會ニ出席セシコトニ就テ、同氏ハ左ノ如ク述ベテ居ル。

「車行十二時間ニシテ午後七時ゆれカニ着ク。停車場ニハ舊友しやーれんべるぐ(加洲勞働同盟幹事)いーりー(桑港ぶるちん新聞勞働部擔任記者)ノ両氏出迎ヘラレ自カラ案内シテればやほてると云フニ投宿ノ世話ナサレタ」。(夫ヨリ大會ニ於ケル狀態ニ就テ鈴木氏ハ詳細ニ記述シテ居ルガ、先ヅ友誼的代表者トシテノ問題ニ就テ左ノ如ク述ベテ居ル)。

「今年ハ去年ノコトモアルコトトテ無論滿場一致テ通過ス可シト思ヒノ外、反對ノ聲議場ノ一隅ニ起ツタノデアアル。ソレハ桑港ノ洗濯職工同盟會ヨリノ代議員ちやーるす、ちやいるギト云フ男デアアル。其ノ云フ所ハ愚ニモ付カヌコトデアアルガ、我等排日ヲ標榜スル團體ノ大會ニ其ノ本國ヨリノ代表者ノ出席ヲ好マヌト云フノデアツタ。夫レニツイテ議論ハ方々ニ起ツテ約三十分以上ヲ費ヤシタ。併シ其ノ後ニ立ツ代議員ノ說ハ何レモ何レモ僕ニ味方スルノデアツテ、ちやいるギ先生ぐ、うノ音モ出ナクナツタ。カクテ反對ノ動議ハ大多數ニ壓迫サレテ仕舞ツタ」。「其ノ後同人ハ僕ノ權幕ニ恐怖ナシタカ僕ト同宿ノ

(1) 勞働及産業大正五年一月號

ぶるちん紙記者いーりー氏ノ許ニ來リ、(鈴木君ハ大變怒ツテ居ルヤリテアル。併シ自分ハ簡入トシテハ同君ニ對シテ別ニ惡意ヲ持タナイ。自分ノ組合ノ決議ナルガ故ニ止ムヲ得ナイ。何卒鈴木君ニ感情ヲ害サヌヤウニ取ナシヲ願ヒタイ)ト言ツテ來タサウテアル。

夫ヨリ鈴木氏ハ大會ニ於テ一場ノ演說ヲ試ミタガ、非常ノ喝采ヲ以テ受ケラレ、又氏ノ朗讀セラル友愛會ノ決議案ハ「滿場ノ喝采ヲ得タ。此決議案ハ其儘ニ勞働黨ノ記錄ニ殘サルルコトナツタ」。

次ニ同氏ハ加洲勞働黨招待ノ件ニ就テ

「丁重ナル招待狀ヲ作製シ、之ヲ日本友愛會々長ノ名ニ於テ加洲勞働大會ニ提出シタ。僕ノ演說ノ後辟事しヤーれんべるぐ氏ハ其全文ヲ大會ニ於テ讀上ゲタ。拍手又大ニ起ツタ。此ハ併シ加洲勞働黨未曾有ノ事デアル。加洲ノ勞働同盟ハ其ノ成立以來本ダ海外ニ人ヲ派遣シタコトハナイノデアル。ソコテ其ノ費用モナイト言フ譯テ、案ハ委員五名ノ聯合協議ニ委附サレタ」。「委員會ニ於テハ僕ノ言ヲ諒トシ、直ニ特別ノ費用ヲ作りテ、代表者ヲ派遣スルニ決シ、其旨大會ニ報告シタガ、大會ハ滿場一致大拍手喝采ノ裡ニ此案ヲ通過シタノデアル。諸君！コレハ日米ノ國交ニ於テ未曾有ノ事デスジ。多年日本排斥ノ事ニ全力ヲ傾注シテ居ル勞働黨ガ、今ヤ其態度ヲ一變シテ、彼等自身ノ費用ヲ以テ、日本友愛會ニ代表者ヲ送ル。之レ實ニ天祐ニアラズシテ何デアルカ。」

「次ニ我等ニ利害ノ大關係アル問題デ討議サレタノハ、例ノ亞細亞人排斥案デアル。コレハ不幸ニモ大會ヲ通過シタ。六七年來引續テ行ヒ來レル事デ止ムヲ得ナイノデアル。併シナガラ今年ハ此ノ案ニ對シテ有力ナル反對論ガアツタ。併シ多數ヲ以テ通過ハシタガ、クレドモ例年トハ大分趣キガ變ハツテ居タ。賛成論者ハ悉ク、自分等ハ決シテ日本人チ人種のニ排斥スルノデハナイ、併シ彼等ハ來ツテ自分等ノ經濟的ノ立場ヲ切脇ス故ニ止ムナク自衛上反對スルノデアルト、カカル議論ハ殆ンド加洲勞働大會ノ輿論公論トイツテモヨイ。ソコテ所謂東洋人勞働者組合組織案ナルモノガ、時ナ同フシテ二人ノ代議員

ニヨツテ別々ニ大會ニ提案サレタ。提案ノ理由ニ曰ク、我等ハ年々東洋人排斥案ナルモノノ大會ニ提出セラルルヲ見ルハ實ニ不愉快極マル事デアアル。コレト云フモ畢竟スルニ東洋人ガ我等ノ經濟上ノ競爭者ナルガ故デアアル。希クハ我等ノ力ニヨツテ彼等ノ間ニ組合ヲ組織セシメヨ。然ラバ我等ト彼等トノ間ニ何等競爭ノ理由ナク、茲ニ日米問題ハ解決スルニ非ラズヤト。案ハ委員附託トナリ、委員ハ協議ノ結果報告シテ曰ク、案ノ趣意ニハ全然同感ナレドモ我等ニハ東洋労働者ニ關スル智識不充ナルガ故ニ我等ハ我が團體ノ幹部ニ一任シテ充分ノ調査ヲ求メ、來年ノ大會ニ於テ報告ヲ乞ヒ其結果ニヨリテ着手スルモ遅カラジト、カクテ此議ハ幹部ノ手ニ一任サレルコトトナツタノデアアル。蓋シ彼等ハ多年排日ノ實行ニ從ヘルモノ、今日急ニ其ノ態度ヲ改メンコトハ聊々輕卒ノ識ヲ免レナイ、事ヲ慎重ニスルノ點ニ於テ一年ノ期間ヲ與ヘタルコトハ當然ノ事デアラウ。<sup>(1)</sup>

ト言ツテ居ラレル。夫レヨリ鈴木氏ハばるちもーあニ於ケル米國労働大會ニ出席セラレ、茲ニモ同様ナ或ハ以上ノ歡迎ヲ受ケラレタノデアアル。<sup>(2)</sup>

以上述べ來リシコトニヨリテ見レバ、從來排日運動ノ中堅ト見做レテ居ツタ加洲労働組合ノ態度カ、近來如何ニ變化シツツアルカハ明ラカデアアル。又米國全體ノ労働組合ノ態度モ大ニ變化シツツアルコトガ察セラレルノデアアル。サレバ戰後米國ノ労働供給カ不足シ、東洋移民ノ排斥、殊ニ日本移民ノ制限ヲ寛和セントスル傾向ノ起ルニ當テ、米國ノ労働組合ノ反對ハ余ガ昨年ノ論中ニ於テ想像セシホド、強クナカラウト思ハレルノデアアル。

## (七)

余ハ昨年ノ論文中ニハ戰後歐洲諸國ニ於テ復舊事業ガ盛カンニ起リ、労働ノ需要ガ大ニ増加スルニツレテ、賃銀ハ昂騰シ、而シテ米國ニ於ケルト大差ナキモノトナリ、隨フテ從來ノ如ク、米國

(1) 労働及産業、大正六年一月號、

(2) 同雜誌、大正六年二月號、

ニ於ケル歐洲移民運動ハ、主トシテ經濟的原因ニヨリテ支配サレルモノトスレバ、歐洲移民ハ大ニ減少シナケレハナルマイト論ジ、且ツ其ノ點ヲ大ニ重要視シテ居ツタノデアル。但シ米國ノ學者中ニモ同様ナ見解ヲ抱ケル人々ハ少ナクナカツタノデアル。然ルニ此問題ニ就テ、其ノ後リゆいす、ふりーまん氏ハ英佛伊ノ三ヶ國ニ於テ、一ヶ年程ヲ費シテ詳シク調査ヲ試ミ、是ニ基ツイテ立タタ氏ノ意見ヲ米國ノ一雜誌ニ公ニサレタガ、其ノ論ズル處ニヨルト、歐洲諸國ノ軍需品工場ニ於テハ、以前ニ比シテ賃銀ハ大ニ昂騰シテ居ルガ、而モ工業の賃銀ノ一般の平均ハ、米國ノ夫レニトテモ及バナイ、而シテ歐洲諸國ニ於テハ生活費ハ米國ニ於テヨリモ一層迅速ニ高マリツツアツテ、又戰爭終結後モ急ニ低下シ相ニモ思ハレナイ。隨フテ經濟の事情ガ開戰前ニ於ケルト同様ニ、戰爭後ニ於テモ、米國ニ於ケル歐洲移民運動ヲ支配スル根本の原因デアルトキハ、戰後歐洲移民ハやはり大ニ増加スルト推察シナケレバナラヌ。併シ戰後ハ忍ラクハ經濟的原因以外ノ原因ニヨリテ、歐洲移民運動ハ支配セラレ、而シテ夫レガ爲メニ歐洲移民ガ増加スルコトハアルマイ。要スルニふりーまん氏ハ、戰後米國ニ於ケル歐洲移民運動ハ、以前ノ如ク主トシテ經濟的原因ニヨリテ支配サレルノデハナク、歐洲諸國ノ移民政策ニヨリテ、大ニ支配サレルモノト考ヘルノデアル。而シテ戰後歐洲諸國ハ其ノ人民ノ國外移住ヲ禁止シ或ハ大ニ制限シ、ソレニヨリテ米國ニ於ケル歐洲移民ハ減少スルモノト考テ居ル様デアル。本雜誌前號ノ雜錄中ニ余ノ譯シテ置イタウゑんすどつく氏ノ意見モやはり戰後歐洲諸國ガ復舊事業ノ爲メニ其ノ大ニ減少セル勞働力ヲ保持セントテ國外移住ヲ禁止スル事ガ米國ニ於ケル歐洲移民ノ減少スル主要ナル原因ト見做スモノデア

(1) Lewis R. Freeman, Labour and Immigration after the War, Industrial Management, Febr 1917. (The American Reviews of Reviews, march 1917).

ル。余ノ昨年ノ論文ニ於テモ、やはり此ノ事ヲ以テ其ノ重要ナル一原因ト見做シテ居ルガ、而モ夫ヨリモ一層多ク經濟的原因ヲ重要視シテ置イタノデアル。然ルニ今ふりーまん氏ノ論ズルガ如クニスレバ、余ノ論據ハ薄弱トナルガ如クニ思ハレル。尙ホ昨余年ガ愚見ヲ發表セシ際ニモ、友人知己ノ學者中ヨリ戰後ト雖ドモ歐洲ノ賃銀ハ決シテ米國ノ夫レニ及バナイカラ、賃銀ノ點カラ見テハ、戰後米國ニ於ケル歐洲移民ノ減少ヲ推察スルコトハ出來ナイ、ト云フ批評ヲ受ケタノデアル。併シ余ノ考フル處ニヨレバ、歐洲ニ於ケル賃銀ノ昂騰ガ米國移住ヲ制限スル結果ヲ生ズルニハ必ズシモ絶對的ニ米國ノ賃銀ト同一ノ平準マデ上ルヲ要シナイ。若シ賃銀ノ絶對的高サニヨリテノミ、歐洲移民運動ガ支配サレテ居ルトスレバ、戰爭前ニ於テモ米國ノ賃銀ハ、常ニ歐洲諸國ノ賃銀ヨリ高カツタノデアルカラ、實際ニアリシヨリモ遙カニ多クノ移住ガ行ハレナケレバナラヌ筈デアル。然ルニ實際ニ於テソウデナカツタノハ、賃銀ノ絶對的高サガ之ヲ支配スルカラデナク、相對的高サガ之ヲ支配スルカラデアラウト思フ。サレバ戰後歐洲ノ賃銀ノ高サハ、絶對的ニハ米國ノ夫レニ及バナイトシテモ、相對的ニ以前ヨリ高マレバ、自カラ歐洲人民ノ國外移住ヲ抑制スル結果ヲ生ズルデアラウト思フ。併シ余ハ此點ニ就テハ、昨年ノ論文中ニ述ベシヨリモ愚見ヲ寬メ、而シテ戰後ノ歐洲諸國ノ移民政策ノ影響ヲ一層重要視シタイト思フ。要スルニ余ハ昨年ノ論文ニ於テハ、戰後米國ニ於ケル歐洲移民運動ヲ支配スル原因ニ就テ、やはり戰前ニ於ケル如ク、經濟的原因ハ最トモ重要ナルモノニシテ、而シテ歐洲諸國ノ移民政策ハ之レニ次テ重要ナルモノト見テ居ツタガ、茲ニ其ノ點ニ修正ヲ加ヘ、歐洲諸國ノ移民政策ハ經濟的原因ト同等ニ重

要ナルモノト認メントスルノデアル。

(八)

却說余ハ米國ニ於ケル排日運動ノ根本原因ハ、若シ經濟的ノモノナラバ、戰後米國ニ於テ勞動ノ供給ガ不足スル場合ニハ、自カラ減弱スルコトニナリ、而シテ若シ人種の嫌惡デアルトスルモ經濟的必要ハ自カラ之ヲ寬和セシムルデアラウ、サレバ排日運動ノ原因ハ、根本的ニハ經濟的ノモノニアルニセヨ、又人種の嫌惡デアルニセヨ、米國ニ於ケル勞動ノ供給ニ不足ヲ生ズル場合ニハ、排日運動ハ自然ニ減弱又ハ寬和スルモノト考ヘテ居ツタ。而シテカカル見解カラシテ昨年ノ論文中ニ述ベシガ如キ愚見ヲ立テタノデアル。然ルニ戰爭ハ未ダ終結ヲ告ゲナイカラ、愚見ハ果シテ實現サレルモノナルヤ否ヤハ確カデナイガ、トニカク最近ニ至ツテ、米國ニ於ケル東洋移民排斥ノ根本原因ハ、經濟的ノモノデアルニセヨ、又人種の嫌惡デアルニセヨ、歐洲移民ガ減少シテ勞動ノ供給ニ不足ヲ生ズル場合ニハ、米國ハ敢テ東洋移民ヲ招致スルニ躊躇シナイモノデアルコトヲ證明スル傾向ハ、歷々トシテ現ハレテ來タノデアル。近來米國ニ於ケル勞動ノ供給ハ、大ニ不足ヲ生ジ、而シテ夫レガ爲メニ種々ナル經濟的不利益ヲ蒙リ、又種々ナル社會的弊害ガ起リツツアルコトハ、余ハ種々ノ方面ヨリ見テ推察シテ居ツタノデアル。而シテ其ノ一班ヲ、最トモ痛切ニ又簡明ニ論述セルモノトシテ、うえんすどつく氏ガ本年一月ニ出版サレタル米國政治社會學院年報第六十九卷第百五十八冊中ニ發表サレタル一論文ヲ譯シテ、之ヲ本雜誌前號雜録中ニ載セテ置イタノデアル。且ツ右ノ如キ勞動不足ノ狀態ニ於テハ、戰爭中ニ於テモ、早晚東洋移民制限撤廢問題ガ起ルモノト信ジ、實ハ此ノ問題ノ起リ來レルコトヲ報ズル電報ヲ、日々心潜カニ待

チ受ケテ居ヅタノデアル。然ル處大阪朝日新聞ハ本月三日ノ紙上ニ於テ、一日發しやとる特電トシテ先ヅ左ノ事實ヲ傳ヘタ。

「しやとる發行ノ『華盛頓週報』ハ最近二回際心ナル日本移民歡迎論ヲ發表シタリ、米國參戰ノ移民問題ニ及ボセル影響ハ漸次良好ナルガ如ク排日派ノたいむす紙スラ參戰以來日々屋上ニ日章旗ヲ掲揚シ居レリ。」

次ニ同新聞ハ本月九日ノ紙上ニ於テ、七日發桑港特電トシテ左ノ事實ヲ傳ヘタ。

「到ル處労働者缺乏セルヲ以テ戰時食料品解決ノ方法ハ東洋移民ヲ日本及ビ支那ヨリ招致スルニアリトノ議論盛ニシテ加洲ノ南中部ノ農業者ハ米政府ニ戰時中ヲ限り東洋移民制限ヲ撤廢セシメトテ請願ス可シトノ報アリ、但シ前桑港委員タリシふれすの新聞ノろゝゝる氏ハ日本人ハ總テノ點ニ於テ優等ナルガ唯ダ日本人ナルガ故ニ其ノ移住ニ反對スト稱シ居レリ。」

同新聞ハ又十日の紙上に於テ八日發桑港特電トシテ左ノ事實ヲ傳ヘタ。

「すこゝくさん商業會議所ハ農業家ノ焦眉ノ急ヲ認メ五萬人ノ東洋労働者輸入ヲ決議セリ。」

「米國労働者ハ八日桑港ノ移民官ハわいミ氏ニ爾今日本人ノ寫眞結婚者ハ別ニ米國式ノ結婚式ヲ舉グルヲ要セズ、正式ノ夫婦トシテ認メラレ、又學術試験ヲモ要セザル旨ヲ訓令シ來レリ。」

更ニ同新聞ハ十二日ノ紙上ニ於テ十日發桑港特電トシテ左ノ事實ヲ傳ヘタ。

「加洲すこゝくさん市商業會議所ハ加洲ノ農產物收穫ニ當ラシムル爲メ亞細亞移民十萬人ノ移住ヲ許可スル法律ヲ發表セシメトナ洲議會ニ提出スル準備中ナリ。」

以上ハ余ガ本論文ヲ書き終ルマデニ、大阪朝日新聞紙上ニ掲載サレシ米國電報デアルガ、是レハ余ノカネテ豫期シツツアツタコトデアルカラ、余ハ非常ニ興味ヲ感ジタノデアル。

要スルニ右ノ現象ハ、米國ニ於ケル排日運動ノ根本原因ハ、經濟的ノモノデアルト、人種の嫌惡デアルトヲ問ハズ、歐洲移民カ減少シテ米國ノ労働ノ供給ニ不足ヲ生ズル場合ニハ、米國ハ東洋移民ヲ招致セザルヲ得ナイト云フ愚見ヲ證明スルモノデアル。而シテ右ノ形勢ハ只戰時中ニ止マルカト云フニ、余ハソウデアルマイト考ヘルノデアル。勿論戰後ニ至ラバ歐洲移民ハ又米



國ニ渡ツテクル。併シ戰前ヨリハ大ニ減少スルコトハ、既ニ論述セシ種々ナル理由ニヨリテ推察サレルト思フ。然ルニ戰後ノ米國ニ於テハ戰前ヨリモ一層多クノ勞働ハ需要サレテクルデアラウト思ハレル。夫レ何人モ熟知スル如ク、米國ハ戰爭始マリテヨリ今日マデニ、既ニ非常ニ儲ケテ居ルノデアアルガ、然ラハ此ノ巨額ノ富ハ戰後如何ニ使用サレルデアラウカ。若シ之ヲ主トシテ消費享樂ニ使用センカ、米國民ノ道德的腐敗ハ實ニ恐ル可キ程度ニ達スルカモ知レナイ。而シテ其ノ正當ナル使用ハ自然ノ富源ヲ開拓スルニアルコトハ、今ヤ米國ノ識者ガ一般ノ人民ニ與ヘツツアル訓戒デアアル。且ツ米國ハ今日モ尙ホ開拓サレテ居ラナイ殆ンド無限ナル自然的富源ヲ有ツテ居ルノデアアル。サレバ今回獲得セル巨額ノ資金ヲ其ノ未開ノ富源ノ開拓ニ運用スルコトハ、米國ノ健全ナル發達ノ爲メニ甚ダ肝要デアアルノデアアル。是レ實ニ今ヤ米國ノ識者ノ唱道シ力説シツツアル見解デアアル。而シテ米國ノ企業家ガ、此見解ニ從フテ盛ンニ自然ノ富源ノ開拓ニ努力センニハ、カカル事業ニ必要ナル普通勞働ハ米國人ノ好マザルコトデアアルカラ、之ヲ他國ノ移民ニ求メネバナラス。<sup>(1)</sup>而モ歐洲移民ハ大ニ減少シテ、其ノ需要ニ應ズルコトガ出來ナイトスレバ、之ヲ東洋移民ニ求メザルヲ得ナイノデアアル。尙ホ其他種々ナル理由カラ考ヘテ、余ハ米國カ東洋移民ノ制限ヲ撤廢父ハ寛和セントスル傾向ハ、決シテ戰時中ニ止マラズシテ、戰後モ繼續スルコトデアラウト信ズルノデアアル。從フテ戰後日米移民問題ヲ平和的ニ解決シ得ル望ミハ愈々増シテ來タト信ズルノデアアル。併シ果シテ余ノ信ズルガ如キ結果ガ、自然ニ實現サレルデアラウカハ、元ヨリ確實ニ豫知シ難イ事デ、余ハ只右ノ如キ傾向ヲ看取シテ我國ノ外交家モ、亦識者モ、適當ナル工夫ヲ廻ラサレンコトヲ切望スルダケデアアル。(大正六年五月十二日)

(1) 本雜誌前號雜錄(米國ノ勞働ト移民)參考、